

<b>教育理念・目標</b>	日本国憲法が定める基本的人権を尊重し、平和で民主的な社会の形成に資する主権者を育てる。 法政大学の校風として育まれた「自由と進歩」を体現する主体的で創造的な人間を育てる。 豊かな知性と教養、健康な心と身体、思考力と判断力を有する人間を育てる。
----------------	---

<b>重点目標</b>	～チームワークと学び合い～ ①命と人権を重視し、保護者とも連携して生徒と真摯に向き合いながら生徒の成長をサポートする。 ②生徒の状況を全体で組織的に把握し、生徒を中心に据えた活動が展開できるように努める。 ③業務削減を試みて長時間労働を廃し、働き方の改善を促進させることで、教員が精神的ゆとりをもちながら、より豊かな教育活動を展開できる持続可能な環境を実現させていく。 ④チームワークによる教育力向上をめざし、教員会議に結集し共通認識をつくる。 ⑤各分掌が原案を作成することを基本とする。円滑な学校運営の実現のため個々人が全体状況を見据え、各担当部分をコントロールし、持続可能で民主的な学校運営を目指す。 ⑥12 支部や私中高協、法政大学や法政他付属校とも連携しながら、各分掌と力を合わせ、感染の予防策や教育活動に工夫を凝らし、場合によっては新型コロナウイルス対策本部を招集し、生徒が自律的に活動していけるよう、教員集団の英知を結集して乗り越えていきたい。
-------------	--

共通課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2023年7月●日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	<b>建学の精神</b> (建学の精神や理念の理解と意識化)	法政大学憲章を学ぶための付属校生むけ教材『学びのつながり』を HR で活用した。高校 2 年生対象に自由を生き抜く実践知を体現している卒業生講演会を行った(水中考古学者 山船晃太郎氏)。				
2	<b>組織運営</b>	1. コンプライアンス ・内外の教育および社会問題を学び、教育的な指導の実現を目的に研修(部活動指導や個人情報研修等)を計画的に行い、ハラスメントのない学校・職場を目指した。 ・以下の研修を行った。 【7月教研】7月21日(木) ①中高の入試査定における「男女比1:1問題」②「朝 HR のあり方について」③「スマホールと本校の生活指導」をテーマに意見を出し合い、今後の方向性を確認する土台となるような機会にした。 【12月教研】12月21日(水) 報告①「本校の部活動に関する生徒および教員アンケートの結果」 ②「本校の部活指導者の現状について」と 討議①生徒の視点から考える本校の部活動 ②教員の視点から見た本校の部活動を軸に議論を深めた。午後は「部活の完全外注への取り組み」聖学院中学校・高等学校総務統括部長 日野田 昌士先生の講演と質疑を中心に進め、まとめとして本校でのクラブ活動について話し合った。部活が居場所として大事なものであることを共通認識として持ち、一方で、顧問体制・事故時の責任問題・外注など課題として検討した。 ・3/18 情報セキュリティ研修を実施。 2. コロナ対応 感染状況に対応しつつ、必要に応じて大学法人、三付属校、12 支部、私中高協などと連携・情報共有し、ウィズコロナの実践を積み重ねた。感染拡大防止の観点から、規模縮小などの判断を持ち生徒、保護者、教職員にとっても安心安全な活動が保障されるように教育活動を展開した。文部科学省および東京都教育委員会の指針、他校の対応を参考にしつつ、具体的な活動については本校の状況に応じて決定した。 ①感染者が発生した場合の対応について 厚生労働省の通知をもとに、出席停止基準や濃厚接触者の出席停止期間などを随時変更した。感染者が発生した場合の対応は、「新型コロナウイルスに関する衛生管理ガイドライン」に則って実施した。フェアキャストの送信権限を教員全員に付与したことにより、より迅速な対応を取ることができた。学級閉鎖・学年閉鎖の判断については、文部科学省の通知や他校の動向を参考にしながら決定した。2022 年度学級閉鎖(新型コロナに限る)があったのは9月に5クラス、10月と11月に1クラスずつであった。 ②授業 感染対策を講じながら各教科で授業実践をした。コロナ関連の欠席者への対応については、年度初めにまとめて示したことから、大きな混乱なく進めることができた。 ③学校行事 2023 年度の宿泊行事については、2022 年度中に実施時期や形態を決定した。2021 年度実践を踏まえ、宿泊参加同意書や新型コロナウイルス感染疑い発生時の対応マニュアルを作成し、事前の PCR 検査および宿泊行事後の自宅待機期間を設けた上で実施した。宿泊期間中の発熱や怪我など数件あったが、無事宿泊行事を行うことができた。2 学期より体育館やオレンジホールなどの施設の利用上限人数を緩和した。 ④部活動合宿 年度初めに宿泊行事と部活動合宿に関するガイドラインを策定し、それに則って実施した。学年の宿泊行事と同様に、実施前に PCR 検査(春合宿については抗原検査も可)をして陰性が確認された場合のみ参加可としたが、それぞれの合宿時期が異なるため、東京都で一括検査を申し込むことができず、個人で検査をしてもらうこととな				

		<p>った。合宿直前の7月下旬は全国的な感染拡大によりPCR検査場が非常に混雑しており、予約できなかつたり、3日以内に検査結果が出なかつたりする事案が発生した。合宿をきっかけに感染が広がった部もあったが、自宅待機期間を3日設けたことにより、部以外への感染拡大は極力避けることができた。</p> <p>⑤生徒会行事 「適切な感染防止策を十分講じた上で実施」を原則に検討・実施した。</p> <p>⑥式典、保護者会等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・始・終業式は2学期末から対面実施。それまでは、放送とZoomを使った形式で行ってきた。入学式・卒業式は、内容の精選をはかり進めることができた。卒業式には校歌斉唱も再開することができた。状況を見据えて式次第や内容の判断を行う。</li> <li>・年度当初の保護者会は学年・クラス共に対面で行ない、それ以外は感染状況等をふまえて判断するという可能性は残しつつ、ハイフレックス開催で実施（但し、クラスPTAは対面のみ）とした。3学期は、基本的に対面開催とした。</li> <li>・卒業を祝う会は食事を挟まず、短時間で開催することとした。</li> </ul> <p><b>3. 持続可能な運営</b></p> <p>①5年後の構想検討委員会を設置し、本校で大事にしたいものの優先順位をつける取り組みが始まった。ねらいは、経験の深い方も浅い方も意見を出しやすくオープンな形で議論するためである。教員自身の働き方や慣習を問い直し具体的に可能なところから変えなくてはならない。コロナ禍を経て生徒の生活のあり方が見直されるようになった。中長期視点で世代交代を含めてゆとりを生み出す働き方にし、自己研鑽の時間を確保し付属校としての教育内容を創りたい。②入試当日の業務区分化をさらに進め、効果よくかつ安全に遂行した。</p> <p><b>4. 組織検討</b></p> <p>2023年度は、意志決定プロセスの見直し、組織機構・人事委員会制度を検討予定。</p> <p><b>5. 次年度重点課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間管理が運用され、限られた時間の中で、教育の質を上げるためどのように教育活動を展開するか、限られた時間の中で熟議し、活発な討議と明確な意思決定をいかに行うか、関係部署と検討する。</li> <li>・予算について、経常費、法人予算、預り金など使い方も含め学び合う場をつくる。</li> </ul>	
3	<p><b>教育活動</b> (教科、生活、進路、行事、自主活動等)</p>	<p><b>1. 教務</b></p> <p>①新しい教育課程（高校）の実施 新学習指導要領改訂に伴い、2022年度は新しい高校教育課程の導入年度となった。グループワークや自分で調べたものを発表する場をつくるなど、各教科で工夫して実践した。2023年度から実施となる高2の「総合的な探究の時間」は実施時間や内容等について概ね策定することができた。2024年度から始まる高3の「総合的な探究の時間」については、高2の実践を踏まえながら2023年度中にカリキュラム策定を行いたい。</p> <p>②タブレットPCの導入と今後のICT教育の環境整備について 2022年度の入学生は4月または5月にタブレットPCの配布およびガイダンスを実施し、授業やHRなどでの利用が始まった。教員用機器を各HR教室に1つずつ設置したことや、プロジェクターの設置台数が増えたこともあり、ICTツールを活用した授業などの取り組みがしやすくなった。特徴や特性を十分に理解し、効果的な活用を進めたい。また、現在は、BYAD(Bring Your Assigned Device)という、学校が端末の種類や性能を完全に指定する方式を採用しており、特に管理運用面においてメリットが大きいものの、この方式の是非については検討したい。 2023年度で中高6学年すべてがタブレットPCを持つこととなる。校内のICT環境の整備も含めて業務を整理し適切な部署が担えるような仕組みづくりを目指したい。</p> <p>③今後の英語資格試験の実施について 2022年度の高校入学生より、英語資格試験の内容や実施回数を変更した。また、英検の準会場実施をすべて廃止とした。</p> <p>④各試験の運用 ・公正な試験の実施のために「試験監督実施要項」の改定と、学年通信に掲載する受験上の注意の文言の統一を図った。</p> <p>⑤デジタル採点ソフトの導入 定期試験や入試の採点業務の軽減化および効率化を目的に、デジタル採点ソフト「採点ナビ」を本格的に導入した。デジタル採点をする際の注意事項や取り扱いなどについてルールを設け、運用した。</p> <p>⑥国際交流 ・本校から3名が留学をし、海外から3名の留学生を受け入れた。 ・高校の新しい語学研修および中学の語学研修については、当初予定していた研修先がコロナ等の影響により休業状態となり催行不可となってしまった。2023年度高校はカナダのビクトリア州に、中学は通学型のオンライン研修を実施するとし、語学研修再開の見通しを立てた。 ・本校生徒は留学への関心が高いことから短期留学の規定について検討した。短期留学する場合の成績算出方法などについて議論した。</p> <p>⑦教員ガイダンス 年度当初に新任教員を対象ガイダンス（まなBOXやタブレットPC使い方、PC貸与など）のスケジュールを、例年より早い時期に行ったことにより、余裕をもって整え業務を行うことができた。また、新任専任教員を対象「おはなしカフェ」を実施し、業務上の不安や感想を共有し合う場を作った。</p> <p><b>2. 進路</b> 中学：中学学年会と連携、高1：適性検査及び法大見学、高2：OBOG進路講演会、高</p>	

		<p>3：法大推薦・併願・他大受験、全学年：進路希望調査において滞りなく実施した。</p> <p><b>3. 図書</b> ICT化、総合学習における電子データ利用環境の整備に重点をおいた。</p> <p><b>4. 国際交流</b> カナダ語学研修(オンライン)、外務省訪問プログラム、留学生の送り出しと受け入れ、次年度カナダ研修再開、短期留学制度の検討等を行った。</p> <p><b>5. 学事</b> 教員受持時間割表作成、試験時間割・試験監督表等の作成を滞りなく実施した。</p> <p><b>6. 行事検討</b> 中学3年間・高校3年間、中高6年間を見通し、宿泊行事の検討が急がれる。</p> <p><b>7. 生活指導</b></p> <p><b>①命の大切さ・人権意識</b> 7月22日「いのちの日」追悼の集いを行なった。クラブ事故を風化させず教訓化するため、ご家族の意向を尊重しながら、引き続き取り組む。</p> <p><b>②多様性</b> 傾聴を大切に発達段階に応じた対応を心掛けた。支援体制の一層の充実が求められる。</p> <p><b>③主体性を育む</b> 2022年度文科省生徒指導提要が改訂され、子どもの権利条約が位置づけられた。今後も校則の見直しなど、生徒の意見表明権を促し、励まし取り組む。</p> <p><b>④宿泊学校行事・部活動合宿</b> コロナ禍の制限の下、大過なく実施した。</p> <p><b>⑤部活動</b> 大きな事故なく部活動を行った。三付属校の部活動検討チームと並行して本校でも2022年度実施の生徒および教員アンケート結果を参考に、生徒にとっても教員にとっても持続可能なものに、可能なところから変え未来志向で討議する。</p> <p><b>⑥いじめ防止対策委員会の開催</b> 生徒生活アンケートを学期毎計3回、委員会5回開催。ケース会議やミーティングが有効だった。今後も学期ごとに委員会を設定し、生徒に寄り添った丁寧な対応を組織的に行う。</p> <p><b>⑦ネットリテラシー教育</b> 各学年で生徒向け講座、保護者会での注意喚起を行った。引き続き学習する。</p> <p><b>⑧「学校生活の手引き」の改定</b> 生徒会執行部の活動により制服に関する校則が改定された。今改定は、生徒自身が校則について考え、学校の規則の見直しに参画したことで、生徒が自主自律の意味を追求する機会となった。スマートフォンは、今年度実施した試行期間の結果を振り返り2023年度以降、校則改定やその後の指導方針について検討する。2023年度はタブレットに関するルールについても、合わせて確認したい。</p> <p><b>8. 部活動</b> 外部委託の事例研究や教研を通じて部活動の今後の方向性について問題意識の共有を行った。安心安全な指導のために、来年度からコーチ懇談会を課外活動指導員も対象とする。5月以降に実施し、新規のコーチおよび課外活動指導員は必ず出席してもらう。継続のコーチ及び指導員には、顧問を通じて内容確認をする。</p> <p><b>9. 次年度重点課題</b></p> <p>教務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*新しい高校教育課程の確実な運用</li> <li>*総合的な探究の時間の実践(高2)とカリキュラム策定(高3)</li> <li>*ICTの整備とタブレットPCの確実な活用</li> <li>*英語資格試験の業務整理と運用組織の検討</li> </ul> <p>生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*性教育を含めた人権教育の充実</li> <li>*登校時の危険回避のための混雑緩和対策</li> <li>*SNS利用に関する生徒への継続的な安全教育</li> <li>*生徒の意見を尊重した校則・生徒会則・専門委員会の見直し</li> <li>*持続可能なクラブ活動形態の追求、及び既存のクラブの再編成</li> </ul>	
4	安全・保健管理 (保健、安全、防災、施設等)	<p><b>1. 保健</b></p> <p><b>①感染症対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健室内での感染を予防するため、手指消毒、体温計やペンなどの物品消毒、換気などを行った。</li> <li>・発熱等新型コロナウイルス感染症が疑われる症状を有する場合は、早退を勧めた。休養させる際には、ビニールで覆われた隔離ベッドを使用させた。</li> <li>・文科省の通知に基づき、濃厚接触者の特定(年度途中まで)や閉鎖等の助言を行い、感染拡大防止に努めた。</li> <li>・新型コロナウイルス及びインフルエンザ等の学校感染症の出席停止期間や書式について随時周知した。(今年度は医療機関の負担軽減のため、インフルエンザ等の学校感染症も医師の証明を不要とした)</li> </ul> <p><b>②定期健康診断</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で削除していた項目(視力・歯科・耳鼻科・内科)を再開した。視力は検査機器の消毒や、飛沫感染予防のために会話を減らすなど工夫した。</li> <li>・心電図や尿検査等、精密検査が必要な生徒には受診勧告を行った。</li> </ul>	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月に中高1年生の希望者を対象とした色覚検査を実施した。</li> <li>③カウンセリング活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・お便りを隔月に発行し、開室日やカウンセリングの周知をした。</li> <li>・対面相談に加え、相談者のニーズに応じZoom相談と電話相談を実施した。</li> <li>・メンタル不調に対して必要に応じて関係諸機関と連携した。</li> </ul> </li> <li>④応急処置・病院搬送 <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院搬送件数は12件で、内6件は救急車を要請した。</li> <li>・すぐに受診すべきか、救急車を要請すべきか、判断に迷った際には、#7119に相談して対応した。</li> <li>・オンラインで様々な研修会に参加して自己研鑽に努めた。</li> </ul> </li> <li>⑤骨密度検査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校医と協力し、全校生徒の希望者を対象に骨密度検査を行った。中学生対象に学校医による講話も実施した。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>2. 安全・環境・防災</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悪天候で延期した1学期を除いて、2学期（グラウンドへ避難）・3学期（メインアリーナへ避難）に対面で避難する訓練を行なうことができた。また、訓練前に避難経路や防災設備の事前学習の時間を設けた。防災備品の確認と、今後の年次で補充していく計画を立てた。</li> <li>・今後の課題：災害が発生した際の地域との協力関係、防災教育研究ほか。</li> </ul> <p><b>3. 施設・設備</b></p> <p>無線LAN環境構築・無線AP等設置場所を検討し必要な整備を行った。生徒用机の一部天板張替え、調理室、被服室、高校理科室AのAV機器一式の取替えを行った。排水設備の点検が必要。</p>	
5	<p><b>連携</b> (保護者、卒業生、地域等)</p>	<p><b>1. PTA</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に入会について触れ、保護者の自主的な活動であること、それをサポートするという立場から円滑な運営を目指した。入会や組織体制についての課題は、役員会で提起し、今後議論していくことを確認した。</li> <li>・2022度は、12支部の幹事校であったが、定期総会などもPTA役員会の尽力により、前幹事校より引き継ぎを行い、適切に業務を遂行することができた。</li> <li>・1～2学期にかけて要望のあったフォトブックの扱いについて検討し、個人情報保護の観点からフォトブック・写真データの配布等について、基本的に業者写真を活用していく方針を持ち、PTA役員会を通じてPTA運営委員会に、そして学年主任経由で学年への共有を図った。</li> <li>・3部会の会合や諸行事を可能なところは対面で開催するなど、都度実情に合わせて実施した。新年懇親会の再開をはじめ、鎌倉古寺巡り、一日講習と鈴掛祭での作品展示、キャンパスツアーも実施し、学年との連携も図るなど、現在できる最大限の活動ができた。私学助成小中協議会も、近隣校と協力して三鷹市長と直接対話する機会も設けることができた。</li> <li>・卒業を祝う会は短時間で縮小して開催した。</li> </ul> <p><b>2. 卒業生</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームカミングデーは2022年度中止としたが、今後の隔年開催について、全ての代が参加でき、活気ある会にするため、同窓会と連携し、より良いあり方を探りたい。</li> <li>・2022年度同窓会奨学金が創設された。</li> </ul> <p><b>3. 地域</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティまつりの中止により生徒の書道作品の出点ができなかった。</li> </ul> <p><b>4. 次年度重点課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中高としてのPTAのあり方、持続可能な活動の検討</li> </ul>	
6	<p><b>大学との連携</b></p>	<p><b>1. 高大連携の取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7/16 ウェルカムフェスタ(高2対象)、大学教員による座談会・アイデンティティ・教育目標を知る(対面およびオンライン)</li> <li>・8/5 多摩キャンパス体験学習プログラム 4学部の魅力を伝える参加型模擬授業</li> <li>・8/9 ワンデーサイエンスカレッジIN小金井、実験・実習・講義。理系学部への進学意識の高揚。</li> <li>・8/25～27 イングリッシュキャンプ、英語マインド・国際感覚・チームワーク養成。</li> <li>・総長杯英語プレゼンテーション大会は本校から2組2名が参加、優秀賞受賞。</li> <li>・法政大学入学後の状況のフィードバック・学力保障の議論がなされた。</li> <li>・国際高校「大学の学問にふれる」を録画して頂き高2・3生夏季特別講座の自由選択授業として開講。</li> </ul> <p>※本校独自の高1対象キャンパス見学は従来の形式で実施した。2023年度以降は施設の事情から実施不可のためプログラムの検討が急務である。</p> <p><b>2. 法大推薦について</b></p> <p>滞りなく実施した。毎年5月頃出される「総長文書」を十分確認し、生徒保護者に確実に周知し進めることが重要である。前年や例年と学部学科の条件等変更になる場合もあるため、上記文書を丁寧に確認し進める。</p> <p><b>3. 教育実習生の受け入れと大学との連携</b></p> <p>5月下旬～6月3週間11名が実習を行い、法政大学教職担当者とまとめの会を行った。</p> <p><b>4. キャリア形成</b></p> <p>法政大学が策定した長期ビジョン「HOSEI2030」に三付属校教員のキャリア形成の観点から研修の一環としての人事異動について触れている。2022年度の付属校間の異動はなかった。4/1 新任教諭就任式および研修 8/12 付属校教諭就任1・2年目研修</p>	

	<p><b>5. 三付属校合同教研</b></p> <p>3月25日(土)第16回法政大学三付属教研が本校で開催された。第1部「生徒主体の部活動の可能性」をテーマに、佐々木陽平先生(静岡聖光学院)を講師に全体会を持ち、第2部「生徒主体の部活動の可能性(中高)」「中学1年総合授業について(二中高)」 「Critical thinking」講座の実践報告について(国際高)分科会で取り組みを紹介し合い、意見交換した。第一部と第①分科会は、法大関係者・保護者・生徒を含む本校関係者も対面参加(第一部のみZoom ミーティング参加)可とした。</p>	
--	--	--

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2023年7月●日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	三者協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月12(土)三者協議会本番を迎え、生徒会執行部、PTA 役員会の有志の方々含め事前の準備をもとに、充実した話し合いとなった。53名が参加(生徒17名、教員17名、保護者15名、ゲスト5名)し、「SNSを扱う上でのリスク対策～SNSの利用に関するルールを校則に加えるべきか?～」をテーマ・論点とし、生徒からの要望は、先生方にはすべての生徒に問題の本質を理解させる指導をお願いしたい。家庭では、SNS上で気をつけるべき事を話す機会を作り、生徒が互いに互いを守り合える環境を作っていただきたい。という意見が出された。</li> <li>・中学生徒会試行部員が傍聴し、中学での実施を考える契機となった。</li> <li>・3学期に実施高校の校内における携帯電話の使用に関するルールの試行期間を、2023年1/11～16および1/24～28実施しまとめのアンケートを実施した。</li> <li>・今後も生徒を中心に充実した話し合いができるように進めたい。</li> </ul>				
2	教育理念	<p>「三者協議会」が法政大学自由を生き抜く実践知大賞「自立した市民賞」を受賞した。高校生徒会執行部が表彰式においてプレゼンを行い、法政大学憲章にある「自由を生き抜く実践知」および「自立した市民」の意味深さを知ることができた。実践を通して理念の浸透を図りたい。</p>				
3	入試広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校一般入試における集団面接を廃止した。</li> <li>・合否照会システムの導入 合格発表の形式を、本校HP発表および本校掲示発表から合否照会サイトでの合格発表および各自が合格通知書をダウンロードする形に変更した。これにより入学手続(入学金決済)までがよりスムーズになり、合格手続書類を郵送することで、受験生保護者は入試期間に来校する必要がなくなり、本校の業務負担軽減にもつながった。</li> <li>・コロナ対策として1教室30名とし、大過なく終えることができた。</li> </ul>				
4	地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校の混雑緩和の対応策として時差登校等検討した。現在の対策は通学路で生徒が注意すべきポイントを再確認しマナー向上と注意喚起および指導員の依頼、新学期の教員の立ち番となっている。時差登校の設定、指導員増などが必要である。また定期試験時の下校の混雑について、試験科目数の変更により時差下校を可能とする試みを実施。引き続き調整が必要である。</li> <li>・生徒の送迎を控えるよう要請した。</li> </ul> <p>*次年度重点課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校マナーおよび混雑緩和</li> <li>・自転車通学者の交通ルール・マナー</li> </ul>				
5	子育て茶話会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインで2回、対面で1回実施し、延べ25名が参加した。</li> <li>・子育て茶話会の充実化やカウンセラー・保健室との連携協力体制は、オンラインも活用し、例年通り構築することができた。</li> </ul>				
6	学食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学施設保全部・食堂業者・本校と連携し、HPへのメニューとアレルギーなどの告知、フェアキャストでの欠席連絡と食数の確定、アンケート実施を行なった。</li> <li>・入試イベントでの営業も好評であった。</li> <li>・スクールランチ・クラスランチをはじめ、保護者・学年会の食堂・購買営業への協力を得ながら、3学期に入って、1月16日(月)から学級閉鎖となるクラスがあっても、スクールランチ・クラスランチも日程を入れ替えるなどして、学年会・保護者の理解・協力も得ながら極力食品ロスも出さないように営業することができた。対策を立て、業者と相談しながら、可能な限り営業をした。また、保護者のアンケートの声なども取り入れながら、より良い形を模索していきたい。</li> </ul>				